

平成 20 年度の漁況

道根淳・寺門弘悦・向井哲也

1. まき網漁業

(1) 漁獲量の経年変化

図 1 に 1960 年（昭和 35 年）以降の島根県の中型まき網漁業による魚種別の漁獲量の経年変化を示した。

2008 年の総漁獲量は約 6 万 5 千トンで、前年の 84%、平年（過去 5 ヶ年平均、以下同様）の 100%であった。これは近年漁獲の主体であるマアジの漁況は低調であったものの、主要浮魚類であるサバ類、カタクチイワシ、マイワシなどが好調であったため、総漁獲量としては平年並みとなった。2008 年の CPUE（1 ヶ統 1 航海当り漁獲量）は 33.2 トンで、前年・平年並みであった（前年の 90%、平年の 1.1 倍）。なお、2008 年の漁労体数は 12 ヶ統であった。

(2) 魚種別漁獲状況

図 2～6 に島根県の中型まき網による魚種別月別漁獲動向を示した。

① マアジ

マアジは 7 月を除いて周年低調な漁況が続いた。漁獲の主体は 1 歳魚（2007 年生まれ）及び 2 歳魚（2006 年生まれ）で、夏季以降は 0 歳魚（2008 年生まれ）が加入した。2008 年の漁獲量は約 2 万 1 千トンで、前年の 61%、平年の 70%であった。

② サバ類

サバ類は 1～9 月の漁況は低調であったものの、10 月以降マサバ 0 歳魚（2008 年生まれ）を主体に平年を大きく上回る好漁が続いた。2008 年の漁獲量は約 1 万 7 千トンで、前年の 1.2 倍、平年の 1.6 倍となり、4 年連続で前年、平年を上回った。

③ マイワシ

マイワシは 3～5 月にかけて 1 歳魚（2007 年生まれ）を主体に平年の 15 倍となるまと

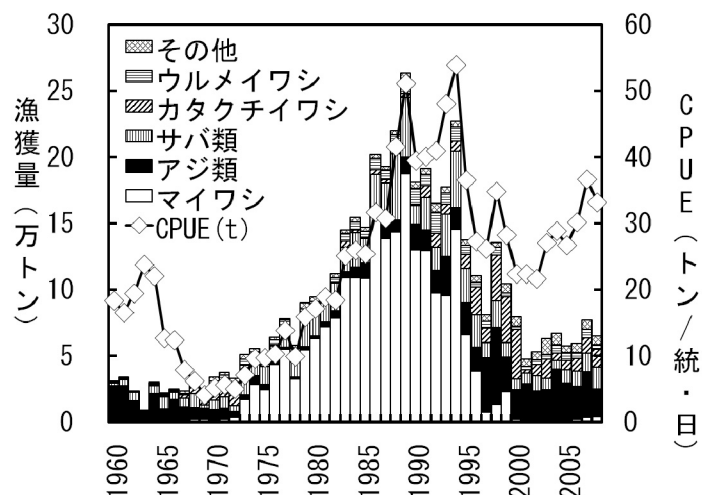


図 1 島根県の中型まき網による魚種別漁獲と CPUE の推移（2002 年までは農林統計値、2003 年以降は漁獲統計システム集計値）

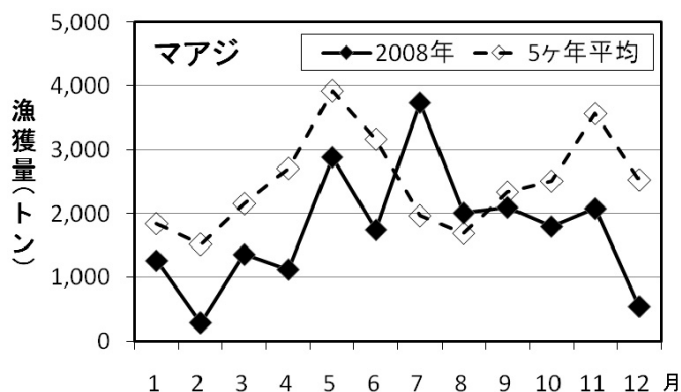


図 2 中型まき網によるマアジの漁獲量

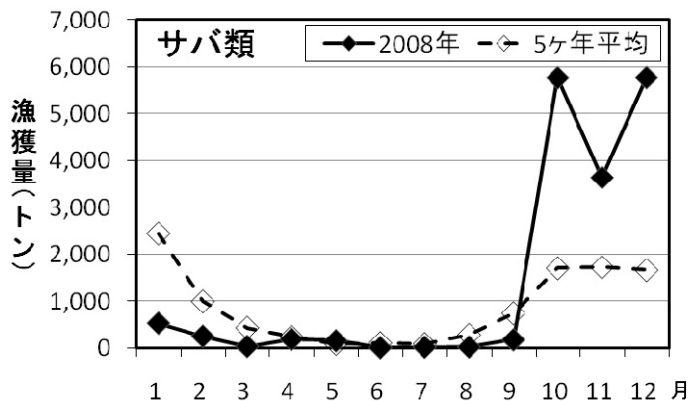


図 3 中型まき網によるサバ類の漁獲量

まった漁獲が続いた。2008年の漁獲量は約4千トンで、前年の1.2倍、平年の2.8倍となり、6年連続で増加となった。本県のマイワシの漁獲量は近年増加傾向にあるものの、資源水準は依然として低位であり、以前のような豊漁は当分見込めない状況にある。

④ カタクチイワシ

カタクチイワシは春季(3~5月)に1万トンを超えるまとまった漁獲があったが、秋季の漁獲は皆無であった。2008年の漁獲量は約1万4千トンで、前年の1.2倍、平年の1.4倍と好調であった。

⑤ ウルメイワシ

ウルメイワシは3~5月に全域でまとまった漁獲があり、9~10月に県東部で散発的な漁獲があった。2008年の漁獲量は約3千4百トンで、前年の52%、平年の63%と低調であった。

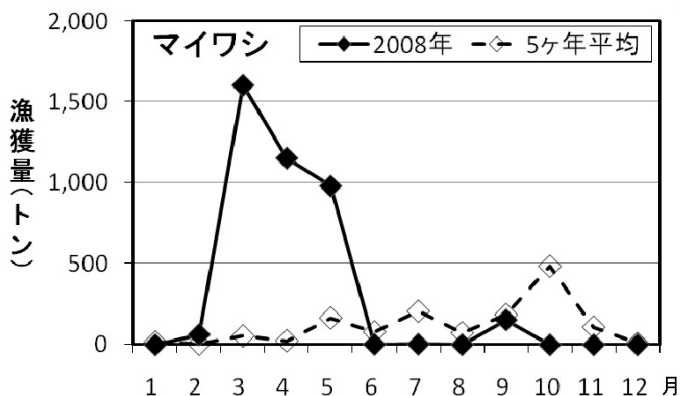


図4 中型まき網によるマイワシの漁獲量

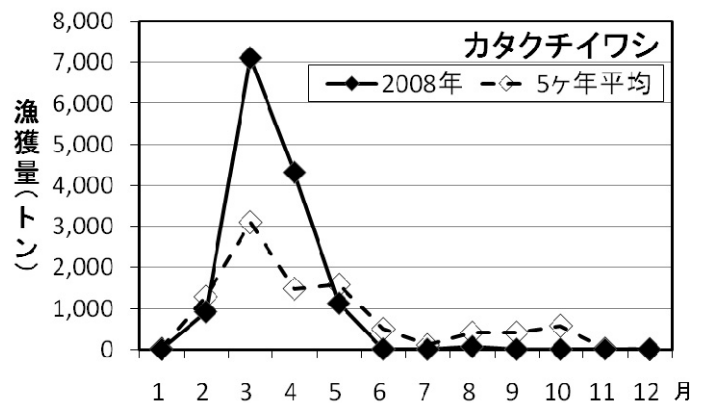


図5 中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量

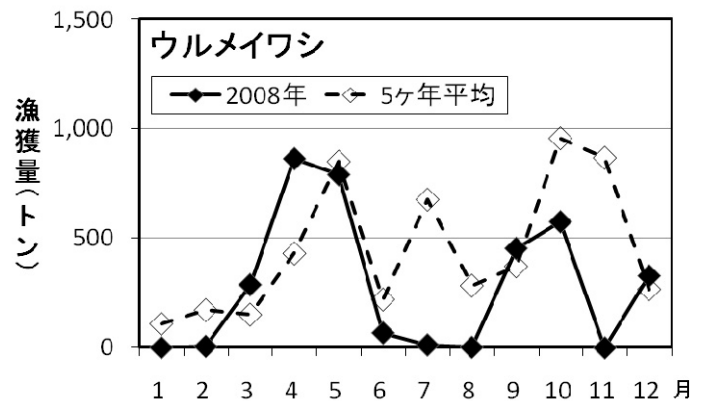


図6 中型まき網によるウルメイワシの漁獲量

2. いか釣り漁業

ここでは、いか釣り漁業（5 t 未満船）、小型いか釣り漁業（5 t 以上 30 t 未満船）、および中型いか釣り漁業（30 t 以上）を合わせたものをいか釣り漁業とし、浜田港に水揚げされたイカ類の漁獲動向をとりまとめた。

（1）スルメイカ

浜田港に水揚げされたスルメイカの漁獲量および水揚金額の年別動向を図 7 と 8 に示した。2008 年の漁獲量は 958 トンで前年（940 トン）・平年（985 トン）並みであった。水揚金額は 3 億 3 千万円で、単価が平年より低かったことから平年の 8 割に留まった。

図 9 に月別の漁獲動向を示した。浜田港において漁獲の主体となっている冬季発生群の南下時期が遅れたため 2 月にまとまった漁獲があり、さらに秋季発生群の北上時期も遅れたため、3 月は一旦まったく漁獲が無い状態となった後、4～5 月にまとまった漁獲がみられた。

（2）ケンサキイカ

浜田港に水揚げされたケンサキイカの漁獲量および水揚金額の年別動向を図 10 と 11 に示した。2008 年のケンサキイカの漁獲量は 599 トンで、前年・平年を上回った（前年の 1.5 倍、平年の 1.2 倍）。水揚金額は 4 億 9 千万円で、前年の 1.3 倍、平年の 1.2 倍であった。

図 12 に月別の漁獲動向を示した。2008 年は漁期の開始時期が前年同様平年より 1 ヶ月程度遅く、8 月までは平年を下回る漁況であったが、9 月に漁獲量が急増し、それ以降平年を上回る漁況が続いた。

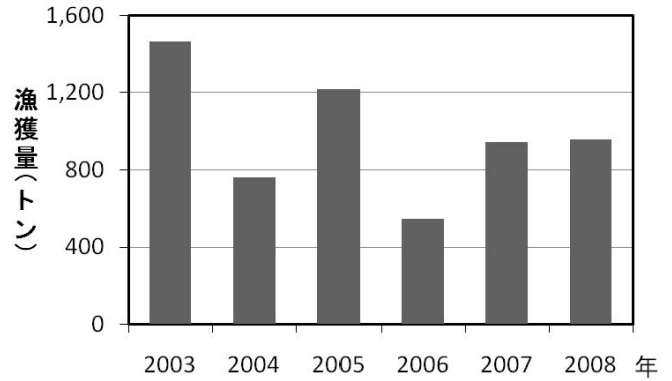


図 7 浜田港に水揚げされたスルメイカの漁獲量の動向

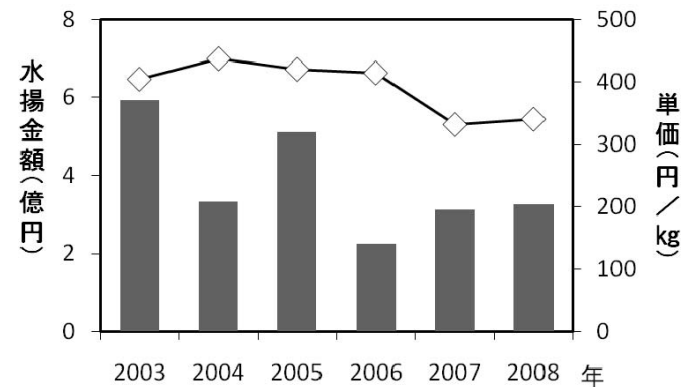


図 8 浜田港に水揚げされたスルメイカの水揚金額と単価の動向

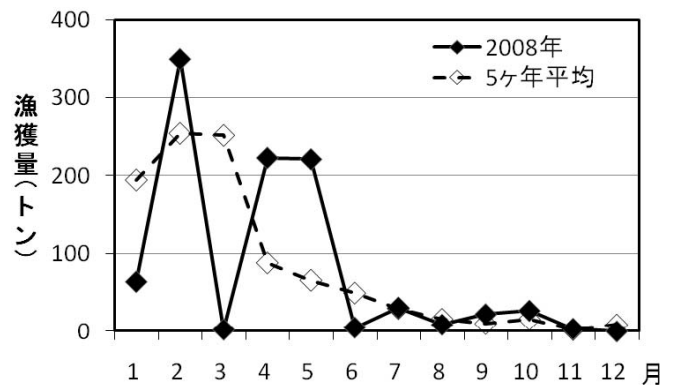


図 9 浜田港に水揚げされたスルメイカの月別漁獲動向

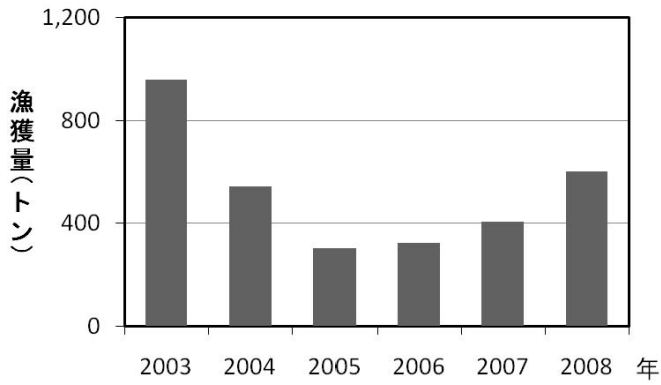


図 1 0 浜田港に水揚げされたケンサキイカの漁獲量の動向

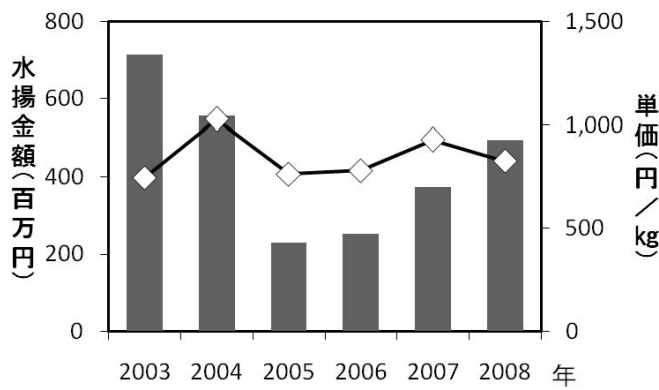


図 1 1 浜田港に水揚げされたケンサキイカの水揚金額と単価の動向

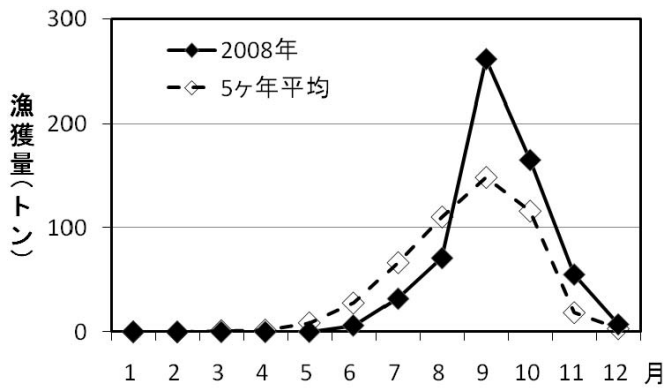


図 1 2 浜田港に水揚げされたケンサキイカの月別漁獲動向

3. 沖合底びき網漁業

本漁業は東経 128 度以東の日本海南西海域を漁場としており、本県では現在 8 ヶ統が操業を行っている。本報告では、このうち浜田港を基地とする 5 ヶ統を対象にとりまとめを行った。操業期間は 8 月 16 日から翌年 5 月 31 日までで、6 月 1 日から 8 月 15 日までは禁漁期間である。ここでは統計上、漁期年を用い、1 漁期を 8 月 16 日から翌年 5 月 31 日までとした。

(1) 全体の漁獲動向

図 13 に 1981 年以降の浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（以下、浜田沖底という）における総漁獲量と 1 ヶ統当たり総漁獲量（以下、CPUE という）の経年変化を示す。

総漁獲量は、1980 年代後半から 1990 年代前半にかけて操業統数の減少により急激に減少したが、1993 年以降 3,000 トン台で安定して推移している（1986 年の漁獲量の急増は、浜田市漁協と出雲船魚市との漁協合併により対象船が増加したことによる）。一方、CPUE は日韓新漁業協定が発効された 1998 年以降急増し、2006 年からは 600 トン台で推移している。

2008 年の浜田沖底の総漁獲量は前漁期をわずかに下回る 3,239 トン、CPUE は 648 トン/統であった。また、総水揚げ金額は 14 億 9,335 万円、1 統当たり水揚げ金額は 2 億 9,867 万円で、前漁期を 7% 下回った。

(2) 主要魚種の漁獲動向

①カレイ類

図 14 にカレイ類の CPUE の経年変化を示す。

ムシガレイは数年周期の増減を繰り返し、1993 年までは減少傾向にあったが、それ以降は増加傾向に転じた。2008 年の漁獲量は 561 トン、CPUE は 112 トン/統で、前年を 20%、平年（1998～2007 年の平均、以下同じ）を 47% 上回り、CPUE は 1981 年以降最高の漁獲となった。

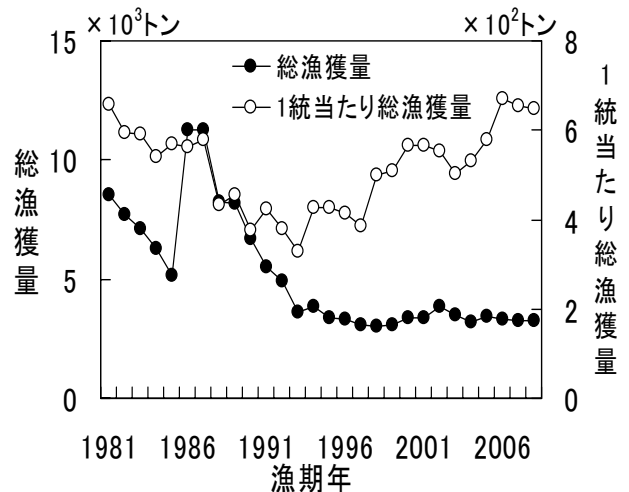


図 13 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における総漁獲量と 1 統当たり総漁獲量の経年変化

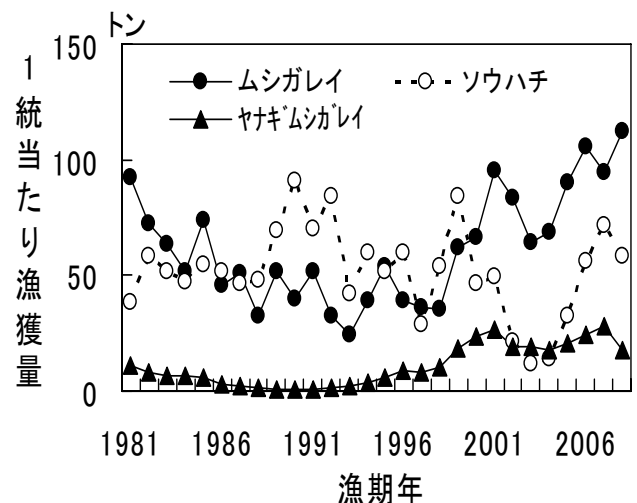


図 14 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業におけるカレイ類の 1 統当たり漁獲量の経年変化

ソウハチは 1990 年以降、大きな変動を示しながら減少傾向にあり、特に 2000 年以降は急減し、2003 年には 12 トン/統まで減少した。その後、2005 年以降は増加傾向に転じた。2008 年の漁獲量は 293 トン、CPUE は 59 トン/統で、前年を 18% 下回ったが、平年を 32% 上回った。

ヤナギムシガレイは 1991 年以降増加傾向にあったが、2001 年以降は横這い傾向にある。2008 年の漁獲量は 90 トン、CPUE は 18 トン/統で、前年を 36%、平年を 14% 下回った。

②イカ類

図 15 にイカ類の CPUE の経年変化を示す。

ケンサキイカは周期的な増減を繰り返していたが、2005年に急減してからは低水準で推移している。2008年の漁獲量は192トン、CPUEは38トン/統で前年の2.2倍の漁獲があったが、平年を15%下回った。今期は秋漁が好調に推移し、最近10年間では最高の水揚げがあった。しかし、春漁は2年連続4~5トン/統であり、依然として低調な状況にある。

一方、ヤリイカは1990年以降急激に減少し、近年は低位横這い傾向にある。2008年の漁獲量は26トン、CPUEは5トン/統であった。

③その他

図16に沖合底びき網漁業で漁獲されるカレイ類、イカ類以外の主要魚種のCPUEの経年変化を示す。

アナゴは、1990年代前半にかけて横這い傾向にあったが、その後年変動が大きくなり、1999年以降は減少傾向にある。2008年の漁獲量は176トン、CPUEは35トン/統で、前年を28%上回ったが、平年を7%下回った。

アンコウは1990年代以降増加傾向にあったが、2007年より減少傾向に転じた。2008年の漁獲量は172トン、CPUEは34トン/統で、前年を33%、平年を7%下回った。

キダイは1990年代は増加傾向にあったが、1998年以降年変動が大きくなり、好不漁を繰り返している。2008年の漁獲量は167トン、CPUEは33トン/統で、前年を10%上回ったが、平年を7%下回った。

ニギスも90年代に入り周期的に大きな変動を示している。2008年の漁獲量は153トン、CPUEは31トン/統で、前年を20%、平年を3%下回った。

アカムツは、1990年代以降、3度(1999、2000年と2006年)急増した時期があったが、総じて緩やかな増加傾向を示している。2008年の漁獲量は102トン、CPUEは20トン/統で、前年の2.2倍、平年の1.4倍の漁獲があった。今期は、秋漁(8~10月)で主に漁獲される中型から大型サイズは低調に推移したが、春

漁(3~5月)の主体である小型サイズは好調に推移した。春の小型魚の漁獲状況から卓越年級発生の可能性が考えられ、今後の資源動向が注目される。

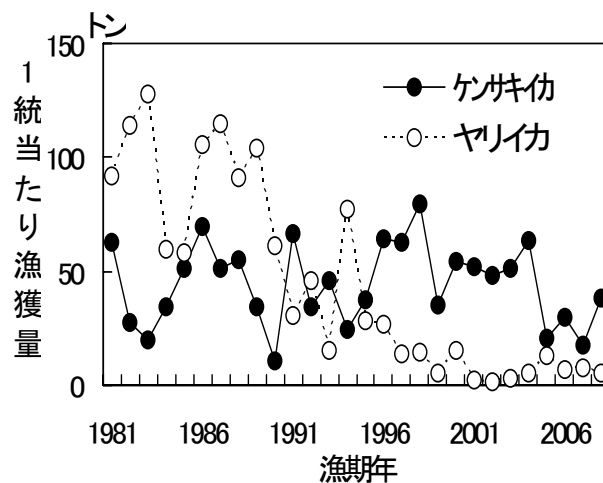


図15 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業におけるイカ類の1統当たり漁獲量の経年変化

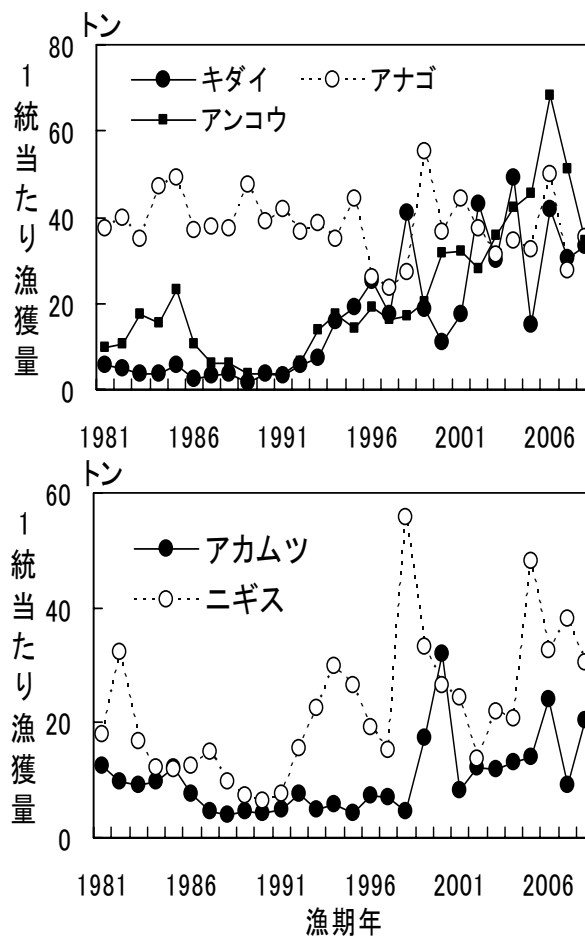


図16 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要種の1統当たり漁獲量の経年変化

4. 小型底びき網漁業第1種

本漁業は山口県との県境から隠岐海峡にかけての水深 80~180m の海域を漁場とし、現在 56 隻が操業を行なっている。操業期間は 9 月 1 日から翌年 5 月 31 日までである（6 月 1 日から 8 月 31 日までは禁漁期間）。ここでは統計上、漁期年を用い、1 漁期を 9 月 1 日から翌年 5 月 31 日までとした。また、1 隻はずわいがにかご漁業を兼業しており、漁期を通して操業を行わないため、これを除いて 55 隻分の集計とした。

(1) 全体の漁獲動向

図 17 に 1993 年以降の小型底びき網漁業(以下、小底という)における 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化を示す。

2008 年の小底全体の総漁獲量は 5,594 トン、総水揚金額は 21 億 459 万円であった。一方、1 隻当たり漁獲量は 102 トン/隻、水揚金額は 3,827 万円/隻で、平年(過去 10 年平均値 90 トン/隻、3,855 万円/隻)に比べ、漁獲量は 13% 上回ったが、水揚金額は平年並みとなった。

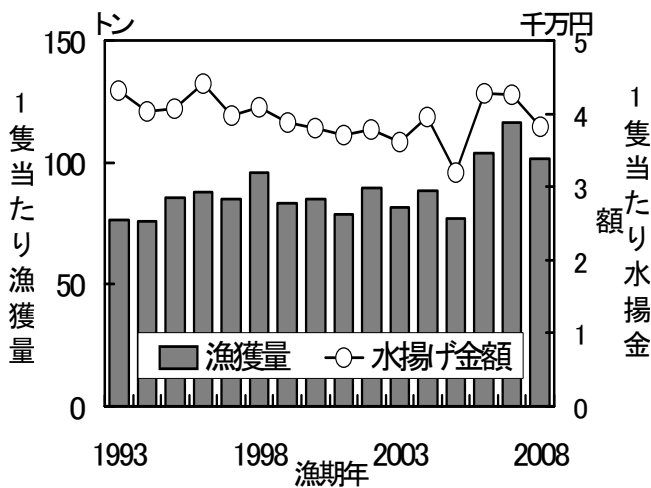


図 17 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の経年変化

(2) 主要魚種の漁獲動向

①カレイ類

図 18 にカレイ類の 1 隻当たり漁獲量(以下、CPUE という)の経年変化を示す。

ムシガレイの CPUE は 5 トン/隻前後で比較的安定して推移している。2008 年の漁獲量は 261 トン、CPUE は平年を 5% 下回る 4.7 トン/隻であった。

ソウハチの漁獲量は 2000 年以降急減したが、2006 年以降増加傾向にある。2008 年の漁獲量は 1,330 トン、CPUE は 24.2 トン/隻で、前年を 21% 下回ったが、平年を 33% 上回った。

メイタガレイの漁獲量は 29 トン、CPUE は 0.5 トン/隻で、前年の 21%、平年の 35% の漁獲に留まり、1993 年以降最低の漁獲となった。

また、ヤナギムシガレイの 2008 年の漁獲量は 68 トン、CPUE は 1.2 トン/隻で、前年、平年の 7 割の漁獲に留まった。

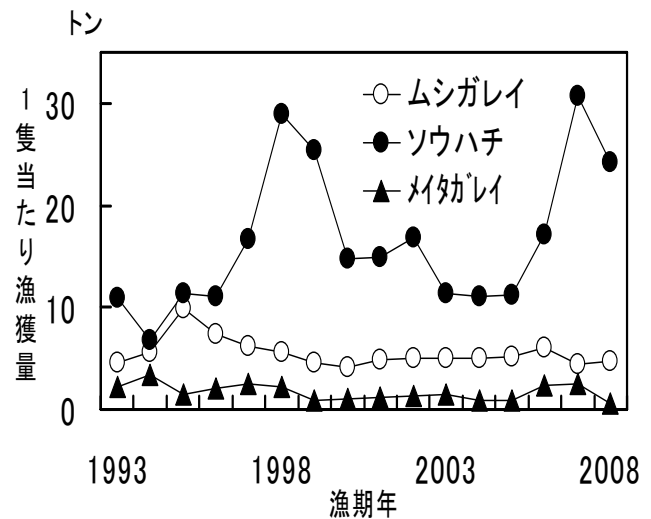


図 18 小型底びき網漁業におけるカレイ類の 1 隻当たり漁獲量の経年変化

②イカ類

図 19 にイカ類の CPUE の経年変化を示す。

ケンサキイカは、2000 年代に入り大きな年変動を繰り返しながら長期的には減少傾向にある。2008 年の漁獲量は 126 トン、CPUE は 2.3 トン/隻で、低調であった前年の 2 倍の漁獲があったが、平年比では 8 割に留まった。

一方、ヤリイカの CPUE は 2001 年までは 1 年おきに好不漁を繰り返していた。2001 年以降は低水準ながら増加傾向を示している。

2008年の漁獲量は106トン、CPUEは1.9トン/隻で、前年、平年をわずかに上回った。

スルメイカの2008年の漁獲量は138トン、CPUEは2.5トン/隻で、前年を17%、平年を7%下回った。

③その他

図20に小底で漁獲されるカレイ類、イカ類以外の主要魚種のCPUEの経年変化を示す。

ニギスのCPUEは1999年に大きく落ち込んだが、それ以後は増加傾向を示している。2008年の漁獲量は835トン、CPUEは15.2トン/隻で、前年を18%、平年を44%上回った。

近年増加傾向にあったアンコウの2008年の漁獲量は405トン、CPUEは7.4トン/隻で、平年をわずかに上回ったが、前年を大きく下回った。アンコウの漁獲量は沖底でも大きく減少している。また、試験船によるトロール調査でも、出荷サイズに満たない小型個体の入網数も減少しており、資源の今後の動向が憂慮される。

周期的な変動を繰り返すアナゴ類の2008年の漁獲量は80トン、CPUEは1.5トン/隻で、前年、平年の5割の漁獲に留まった。

アカムツの漁獲量は148トン、CPUEは2.7トン/隻で、前年の1.8倍、平年の1.4倍の漁獲であった。沖底と同様に4,5月に小型サイズ(呼称:メッキン)がまとまって漁獲されたことが増加の要因と考えられた。アカムツは卓越年級群が発生するたびに、その後1~2年は強い漁獲圧を受け資源回復に結びついていない。

キダイは沖底と同様に大きな年変動を示す傾向にある。2008年の漁獲量は275トン、CPUEは5.0トン/隻で、前年を35%、平年を15%下回った。

ハタハタは年変動が大きく、近年は低水準で推移している。2008年の漁獲量は66トン、CPUEは1.2トン/隻で漁獲されたが、平年の52%に留まった。

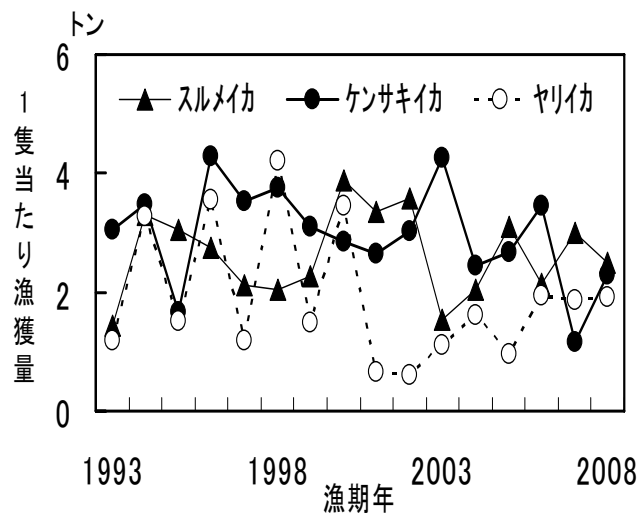


図19 小型底びき網漁業におけるイカ類の1隻当たり漁獲量の経年変化

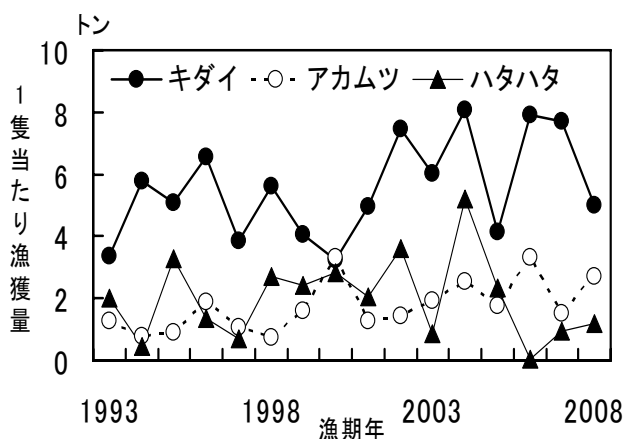
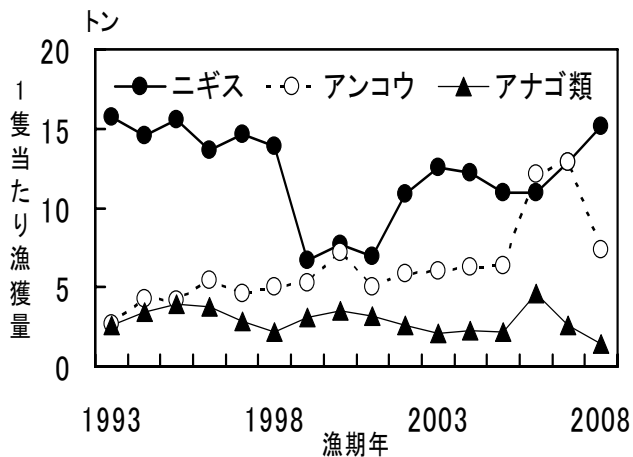


図20 小型底びき網漁業における主要魚種の1隻当たり漁獲量の経年変化

5. ばいかご漁業

石見、出雲海域におけるばいかご漁業は小型底びき網漁業（第1種）休漁中の6月～8月に行われており、平成20年の稼働隻数は6隻（石見部5隻、出雲部1隻）であった。解析に用いた資料は、JFしまねから入手した漁獲データと各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳である。これらの資料をもとに、漁獲動向、エッチュウバイの価格動向および漁場利用について検討を行なった。また、資源生態調査として、JFしまね大田支所ならびに仁摩支所に水揚げされた漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲量からエッチュウバイの殻高組成を推定した。

(1) 漁獲動向（表1、図21～22）

平成20年のエッチュウバイの漁獲量は91トンとほぼ平年並であった。また1隻あたり漁獲量は16トンと平年の110%であった（1隻あたり漁獲量は、6月に休漁した1隻を除いて集計）。エッチュウバイの単価は平均365円/kg（前年371円）と過去最低で、バイの漁獲金額は3,317万円（平年の76%）にとどまった。

表1 平成20年度石見・出雲部のばいかご漁業の漁獲量・漁獲金額

項目	数値	前年比	平年比**
総漁獲量(トン)*	120トン	102%	108%
総漁獲金額(万円)*	4961万円	95%	81%
バイ漁獲量(トン)	91トン	95%	101%
バイ漁獲金額(万円)	3317万円	93%	76%
操業日数	174日	88%	90%

* タコかご含む

** 過去10年の平均との比

(2) 資源動向（図23～24）

資源状態の指標となる1航海当たり漁獲量は平成20年度は522kg/航海であり、ここ3年は比較的高い水準となっているが、1航海当たり漁獲個数で見ると依然低い水準にある。1航海当たり漁獲量が多いのは大型貝が多いためであり、漁獲物の殻長組成(図24)から

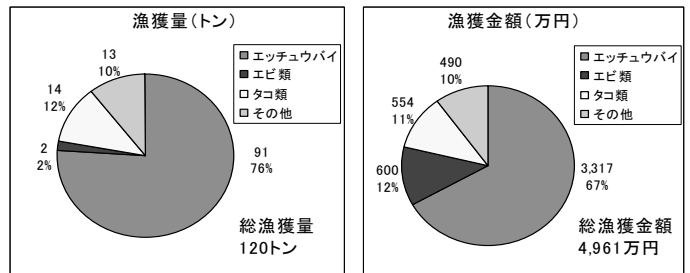


図21 平成20年度ばいかご漁業(石見・出雲)の漁獲量・漁獲金額(*全船)

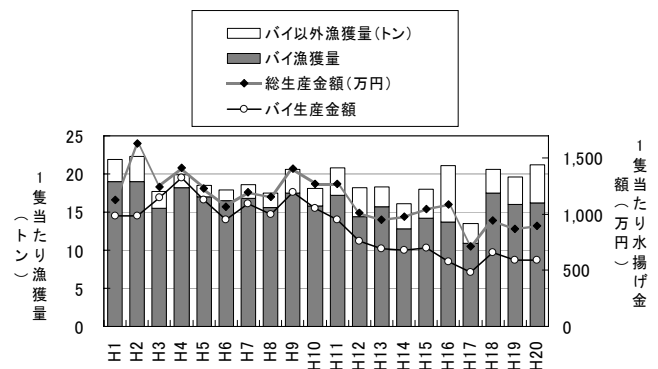


図22 ばいかご漁業における1隻当たり漁獲量の推移

見ても小型貝が少ない。資源状況は加入量が少なく、依然として低水準にあると考えられる。

(3) 漁場（図25）

漁場は前年と同じように N35° 35～45'、E132° 10～30' 付近の漁場に集中している。

(4) 魚価の推移（図26、27）

平成20年度は、エッチュウバイの1kg当たり平均価格は石見部（県西部）で359円（前年比-7円）、出雲市（平田支所）で428円（前年比+16円）と石見部では過去最低となった。このため、1漁期のエッチュウバイ漁獲量の自主規制値である20トン近くを漁獲してもその金額は700万円程度にしかならず、魚価安はバイかご漁業の経営が好転しない大きな要因となっている。

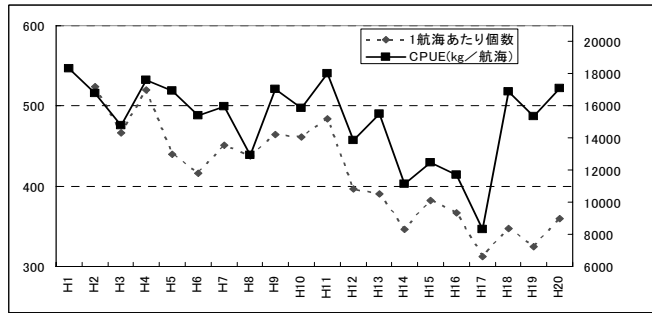


図 23 エッチュウバイの CPUE(1 航海あたり漁獲量)

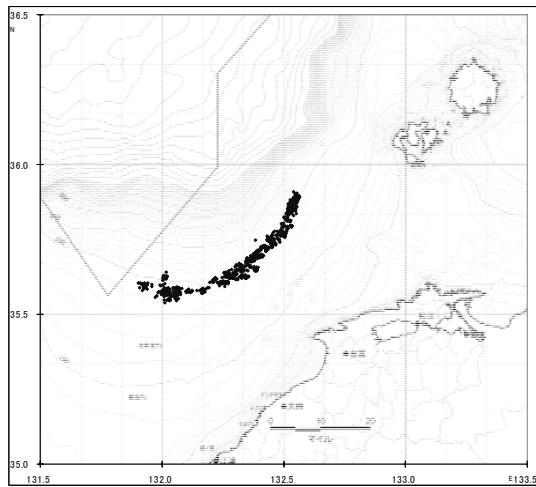


図 25 石見部・出雲部のバイかご漁業の漁場

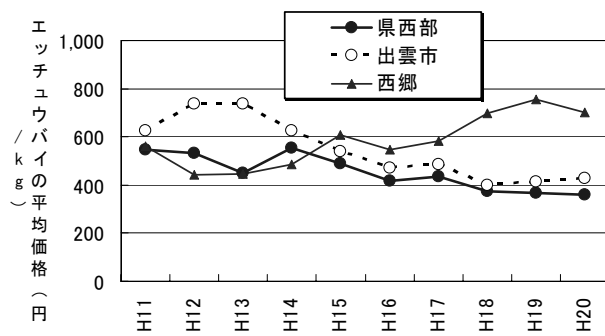


図 26 エッチュウバイの平均単価の推移。(6-8月)

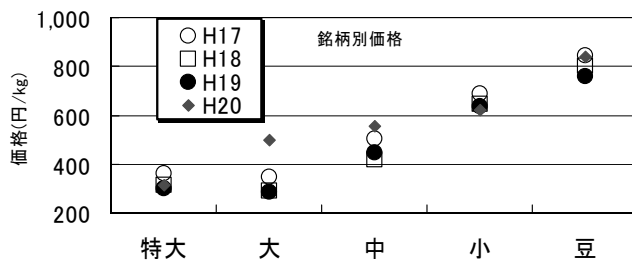


図 27 エッチュウバイの銘柄別単価

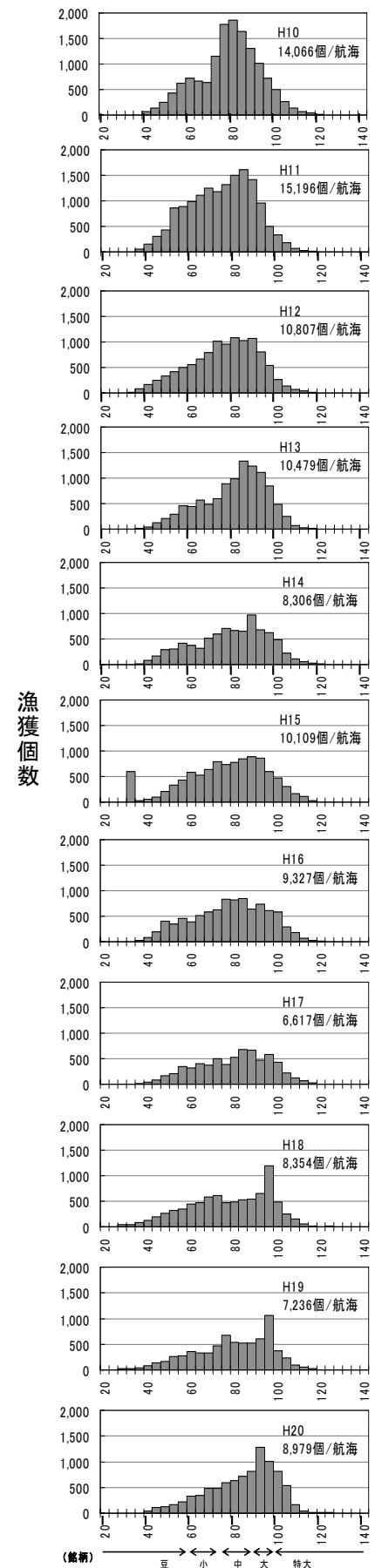


図 24 エッチュウバイの殻高組成の推移。(個数は1航海当たり)